

ふくろう通信

第31号

2013年 10月1日

自然博物館 ねいの里



今日のふくろう先生

中村 規子さん (富山県自然解説員)

ありがとう ねいの里

ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、オオウラギンスジヒョウモン。これらは今年ねいの里でカメラに収めた蝶です。珍しい蝶ではありませんが、図鑑で初めて名前を知りました。また、ヒオドシチョウは羽化直後で、すぐ下の葉に赤く血液みたいなものがあり驚きました。余分な体液を外に出しているそうです。

今年は「水辺の生態園」のトンボにも興味をもちました。職員だった垣地さんにタイミングよくフィールドで会い、図鑑ではわからなかった見分け方や名前など教えていただいたことは幸運でした。イトトンボ類は特に、なぜあんなに綺麗な色をしているのだろうと不思議です。トンボに「自分がキレイだって知ってる？」と聞きたいくらいです。縄張り争い、連結や産卵も見ていて飽きないです。行く度に違う種類が見られることも魅力でした。

ねいの里には10年程前からお世話になっています。子供が幼い時、1人ずつの手の中に小さなハッチョウトンボを入れてもらい、それを一斉に放す行事に参加させてもらいました。その光景が胸に残っています。その後、人生でこんなに虫だらけになったことはないというほど、おびただしい虫が体に付きながらしたキショウブ除去は参加者の方々とワーカー言いながらも楽しかった思い出の1つです。

また、心が折れそうでどうしようもない時も1人でねいの里に来て、樹木や草花たちに慰めてもらい、ちょっとだけ元気になって帰ったこともありました。そういう意味ではねいの里は特別な場所かも知れません。

ねいの里は展示物やブログも充実しています。職員の方がいつも楽しく・見やすくと心掛けてくださっています。私の何気ない質問も熱心に調べてくださいます。アサザやガガブタ、カラスヘビにコオイムシ、希少な植物や生き物にも出会えるねいの里。もっと多くの方にねいの里を知ってもらいたいです。いろんな発見と感動が待っているねいの里にまた行きます。



ミズイロオナガシジミ



オオウラギンスジヒョウモン



ウラナミアカシジミ

へんな虫のへんな行動

最近、コナラの木のドングリが目立つようになってきましたが、木の下に葉っぱがついたままのドングリが落ちています。 4444・・・クマでしょうか？

犯人は虫です。

鼻の長いへんな顔で、名前も「チョッキリ」というへんな名前がついています。

このチョッキリは正しい名前を「ハイイロチョッキリ」といい、ドングリがまだ堅くならない時期に穴をあけて卵を産みつけて、堅い枝を時間をかけて切り落とすので、チョッキリという名前になったそうです。

ドングリが葉っぱについてるのは、卵が入ったドングリがゆっくりと地面に落ちるようにしていると言われています。安全な住むところを作ったり、産まれてすぐにゴハンが食べれるようにとチョッキリのお母さんは愛情がいっぱいですね。植物の実に卵を産むチョッキリは5種類いますが、葉を切り落とすのはこの「ハイイロチョッキリ」だけです。

(ねいの里職員：田中 純)



☆☆7月からねいの里に勤め始めました。よろしくお願ひします。♪田中♪

ねいの里行事案内 (ねいの里ホームページで活動紹介しています。)

- 10月14日(祝) 場所 ねいの里展示館集合
キノコ狩りとキノコ汁を楽しむ 10:00 ~ 12:00
ねいの里の薬草を知ろう 13:00~15:00 (生き物ふれあい自然塾の会主催)
- 11月4日(振) 9:30 ~ 13:30
野鳥の園と公園街道を歩く 場所 古洞の池 駐車場集合
- 12月1日(日) 9:30 ~ 12:00
クリスマスリース作り 場所 ねいの里展示館集合 (生き物ふれあい自然塾主催)
- 1月4日(土)~6日(月) 9:00 ~ 17:00 (初日のみ10:00~)
「春の七草」頒布会 場所 ねいの里
参加希望者はねいの里までお申し込み下さい。

■ 特別展示

9月 4日 ~11月 24日 ねいの里キノコ写真展
11月 27日 ~3月 31日 ネイチャーフォト展
12月 9日 ~1月 19日 春の七草実物展

■ お願い ■

- 「生き物ふれあい自然塾の会」会員募集中
皆さんのお知り合いで、ねいの里をよくご利用される方がおられましたら、自然塾の会への入会をお勧め下さい。会員の方にはねいの里会報「ふくろう通信」をお送りします。
- 会員の駐車場利用について
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、ナチュラルリスト駐車場を利用する事が出来ます。

発行 富山県自然博物館ねいの里館長 富永 宣宏

〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1

Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp

私のジュニアナチュラリスト活動

里っこ山っこにっこにこ

ジュニアナチュラリスト 池井歩夢 さん
(富山市立月岡中学校2年)



僕がジュニアナチュラリストになったのは小学4年生の時です。兄がジュニアナチュラリストだったこともあります。もともと生き物や自然が好きだったからです。ジュニアナチュラリストの活動は、実際に生き物や自然を観察しながら学べるので楽しいです。僕は、7月28日「トンボの調査・標本作り」に参加しました。去年に続き2度目の参加です。まずは、トンボを捕まえますが「せっかくなので珍しいトンボを標本にしたい」と思っていました。シオカラトンボやオオシオカラトンボ、モノサシトンボなどはたくさんいましたが、僕はヤンマ科のトンボやチョウトンボなどの珍しく捕まえにくいトンボを狙っていました。しかし、なかなかチャンスが無くそのままトンボ採集は終了してしまいました。標本作りではトンボを捕まえられなかった為、講師の方からトンボを分けていただき標本作りをしました。標本は家で乾燥をさせれば完成です。作製は2度目なのでスムーズに出来たと思います。去年の標本と一緒に大切に保管してあります。また機会があれば参加したいと思っています。



活動のふりかえり



トンボの調査と標本作り 7月28日(日)

夏休みの子供達へのプレゼント。トンボの形態や生育環境の解説を聞き、採取制限のある園内の水辺の生態園を駆けめぐり子供達。それにもまして、標本作りで真剣な眼差しで取り組む50名の姿が印象的でした。宿題できたかな。(ねいの里職員：岡圭一)

秋の鳴く虫観察 8月24日(土)

暗闇の広場で耳を澄ますと、あたりは虫の鳴き声に包まれてきました。懐中電灯の灯の中で見つめる自然はまた違って見え、しばらくの間でしたが、クツワムシを観察しながらゆったりと過ごすことができました。絶滅危惧種のクツワムシをこのように観察できたのは、職員の皆さんの努力によるものであることに感謝しながら、観察会を終えました。(ナチュラリスト：牧静枝さん)

ジュニアナチュラリスト支援事業 9月7日(土)

ジュニアナチュラリストを迎えて「有峰の自然を探る」というテーマで自然観察会を実施しました。参加者は3班で合計13名・・・少数精鋭です。参加者全員でアサギマダラのマーキングの調査を予定していました。有峰に着く頃には、ポツポツと雨が降り出して肌寒い日となりました。あいにくの雨の中、目指すアサギマダラをなかなか見つけられなかったのですが、クマやサルを見ることができた班がありました。終わりに冷夕谷キャンプ場で、湯浅顧問より採取した昆虫や植物について解説があり、無事観察会を終了しました。(ねいの里職員：平野妙子)

ねいの里 ホォホォニュース

インターンシップを終えて

(国際自然環境アウトドア専門学校自然環境保全学科2年) 平舞衣子さん

今年の8月下旬から9月の中旬にかけて、私はねいの里にインターンシップをさせていただきました。そのきっかけは、ねいの里のホームページでした。元々、私は自然環境や野生生物の保全について専門学校で学んでいます。そして学んでいくうちに、実際の現場ではどのような活動が行われているのだろうと思うようになりました。そこで、このねいの里のホームページを拝見させていただき、実際の現場に触れて体験し、自らの糧にするためには非常に最適な環境だと思い、インターンシップを申し込ませていただきました。こうしてねいの里でのインターンシップが始まり、そしてあっという間に終わりの日が来てしまいました。たった約2週間の期間でしたが、私にとっては毎日が新鮮で、とても濃密な日々でした。主に傷病動物たちのお世話や掃除、企画展示のレイアウトや、ねいの里へ遊びに来て下さった子供たちを始めとしたたくさんの人達のお相手など、様々な経験をさせていただきました。その中でも特に印象深いのは、以前からとても興味があった傷病鳥獣たちのお世話です。私がインターンシップに来る以前からいた傷病鳥獣たちもたくさんいましたし、私が来てからこちらに運ばれてきた傷病鳥獣たちもたくさんいました。その中には、幸いなことにたいした怪我もしてなくて

すぐに自然へ帰せる場合もあれば、とても重要な部位を怪我をしまい、治療の仕様がなくて自然へ帰せない場合も、そして懸命な治療を施しても助けられなかった場合もありました。その場合は誰も悪くなどないのですが、やはり複雑な気分になりました。しかし、今私が関わっている仕事はこのような仕事なのだと、この時改めて実感しました。

私はこのインターンシップを通じて、自然の中で生きる野生動物のこと、その中で傷付いた傷病鳥獣を助けようとする人達、そしてその人達の期待に応えようとするこの人達の後に続きたいと思うようになりました。私1人が関わっただけでは何も変わらないかもしれませんが、いつかその後に誰かが続くように、そして後世に自然の大切さが繋がっていくようにと思います。私はこれからも、この業界の中で生きていきたいです。そしていつか、未来を生きる人達に自然の大切さを繋げていくような人になりたいです。

約2週間もの間、私を指導して下さったねいの里の皆様、私のお相手をして下さったお客様方、そして私に大切なことを教えてくれた傷病鳥獣たちへ、本当にありがとうございました。皆様に感謝申し上げます。

